

2023 年タイ総選挙 一野党の台頭

ラクウォン・パキット

(一橋大学大学院法学研究科博士後期課程)

2023 年 5 月 12 日

要旨

タイの総選挙が 5 月 14 日に実施される。クーデターを起こしたプラユット・チャンオチャ將軍 (General Prayut Chan-o-cha) が率いる親軍政権に固執するのか、それとも別の道を歩むのか、タイ国民が決断するときが来た。親軍政党を優遇する非民主的な憲法にもかかわらず、最近の傾向では、2 大野党であるプアタイ党 (Pheu Thai Party) とタイ前進党 (Move Forward Party) が地滑りのように勝利し、親民主的な連立政権が誕生する可能性がある。プアタイ党は、これまでの記録や最近の世論調査から、総選挙のたびに最多議席を獲得していることから、向かうところ敵なしといえる。今度の選挙でも勝利する可能性が高いと考えられる。一方、タイ前進党とその党首であるピター・リムジャルーラット氏 (Pita Limjaroenrat) の人気は、明確な政治姿勢、変化をもたらすことを望む印象的な政策、政策論争での卓越したパフォーマンスによって急上昇している。このような理由から、タイを軍事政権の遺産から救う、親民主的野党による新政権が誕生する可能性がある。

タイの総選挙が間もなく始まる。タイが親軍政を脱するかどうかというタイの運命は5月14日に決定される。軍に任命された上院議員に首相の選出権を認めたタイ憲法は、現在の主要野党であるプアタイ党（タイ貢献党）とガオグライ党（タイ前進党）が新政権になる余地をほとんど与えていない。しかし、今度の選挙では、前回の総選挙に比べて民主的野党への投票率が大幅に上昇しており、タイ国民の意志がこのような泥沼を乗り越えられる可能性があることを示唆している。本稿では、今次選挙における主要な野党を明らかにし、タイにおける選挙戦の状況を紹介する。

昨今のトレンド

NIDA（国立開発行政研究所）の[最近の世論調査](#)によると、2大野党であるプアタイ党とタイ前進党の人气が上昇していることがわかりました。彼らは現在、プラユット首相のタイ統一党やプラウィット将軍の paran・プラチャーラット党（PPRP）といった親軍事政党や、民主党やプームチャイタイ党（タイ誇り党）といった他の主要な現政権政党に対して強いリードを保っている。NIDA 世論調査の結果は、マティション日刊新聞（Matchon Group-Daily News）の[オンライン世論調査](#)や[ネイション紙（Nation）の世論調査](#)とも一致しており、プアタイ党とタイ前進党が選挙戦を支配している。野党側と政府側の評価が70対30であることから、新政権が野党側から誕生する可能性が高いことが示唆される。

個人の人気については、クーデターメーカーのプラユット首相の今日の国民的支持は、彼の政治キャンペーン「平和を望むなら、トゥおじさんを選ぼう」¹が成功した2019年の総選挙での盛り上がりとは異なっている。このキャンペーンでは、タイで失われた政治的対立を終わらせるという彼の志が示された。当時の彼の傑出した人気は、彼の前党である PPRP の最高人気票にも反映されていた。とはいえ、現在の彼の人気は14.84%に過ぎず、2019年以前の選挙での26.06%から大きく落ち込んでいる。

その一方で、野党候補者の人気は上昇している。NIDA 世論調査によると、首相候補でタイ前進党のリーダーであるピター・リムジャールンラットの人気スコアは、3月の15.75%から5月上旬には35.44%に急上昇している。一方、タクシン・チナワット（Thaksin Shinawatra）元首相の末娘で、プアタイ党の3人の首相候補の1人、ペートンターン・チナワット（Paethongtarn Shinawatra）氏は29.20%で2位にランクインしている。若い政治家である彼らは、革新的なアイデアだけでなく、人々が旧態依然とした政治手法にうんざりしているタイの政治に新鮮な活気をもたらしている。また、この世論調査は、2014年のクーデター以来、プラユット将軍の下で9年間続いた不朽の治世の後、タイの国民が変化を望んでいることを示している。

無敵のプアタイ党

総選挙において、プアタイ党が無敵であることは歴史が証明している。タクシン元首相が設立したタイ・ラック・タイ（Thai Rak Thai）党から、現在のプアタイ党に至るまで、同党は総

¹ 「トゥおじさん」はプラユット首相のニックネームである。

選挙で一度も負けたことがない。2001年、タクシン元首相率いるタイ・ラック・タイ党は、500議席中 248 議席という圧倒的な勝利でデビューした。2005年の総選挙では、377 議席を獲得し、タイ初の単独政権を樹立した。2006年のタクシン首相に対するクーデターの後、党は解散したが、2007年の総選挙で人民権力党という名の新生タイ・ラック・タイ党が再び勝利した。その後、同党は再び解散した。しかし、2011年の総選挙では、タクシン首相の末の妹インラック・シナワット氏（Yingluck Shinawatra）がプアタイ党を率いて 265 議席の過半数を獲得した。2014年のプラユット将軍による彼女に対するクーデターは、軍事政権下で党を再び不活発にした。

2019年の総選挙を前に、プアタイの著名なメンバーや元代表の多くが、親軍事的な PPRP に移るよう強制されたり、説得されたりして、プアタイ党は弱体化した。さらに、2019年に新しい選挙制度として混合議員定数制度（MMA）が導入され、その奇妙な議員定数計算と 400 から 350 への小選挙区議席数の減少により、プアタイ党の勝機は失われた。新制度では、プアタイ党のような大政党はかなり不利な立場に立たされた。小選挙区の議席が党の権利議席を上回る可能性があったため、プアタイ党はプアタイ党とタイ国家維持党（Thai Save the Nation Party）という小党に分裂し、異なる選挙区で争うことになりました。しかし、後者は、同党がウボンラット王女を首相候補として推薦したことが「君主制の制度に敵対する」と憲法裁判所に判断され解散させられた。こうして、新たな選挙ルールとタイ国家維持党の失脚にもかかわらず、2019年の総選挙では、小選挙区別だけで 137 議席を獲得したプアタイ党が最多議席となった。2021年には憲法改正により、選挙人制度が MMA から混合議員多数決制度（MMM）に変更され、今回の選挙では小選挙区 400 議席と政党リスト（party-list seat）100 議席が復活した。こうした選挙制度に慣れているプアタイ党は、前回の選挙よりも多くの議席を獲得する可能性が大いにある。

プアタイ党に対する弾圧や国家主導の情報工作が絶えない中、プアタイ党はタイ人の間で依然として人気があり、総選挙での連勝がそれを物語っている。プアタイ党の成功の理由の一つは、タイ・ラック・タイ党の時代から、国民皆保険制度（30 パーツ制度）などのポピュリズム政策を通じて、草の根の有権者に焦点を当てたことである。当時、約 1,000 万人の貧しいタイの人々は、健康保険に加入することができなかった。しかし、この制度によって、タイ国民の 96% が公的医療を受けられるようになった。その他にも、一村一品製品運動（OTOP）、村落基金などの政策があり、タイ・ラック・タイ党が実施した政策のいくつかは今日でも実施されている。さらにプアタイ党は、次期選挙に向けて、16 歳以上のすべてのタイ国民に 1 万パーツのデジタルバウチャーを配布する「1 万パーツのデジタルウォレット」計画を発表し、有権者を惹きつけようとしている。世論調査による高い評価とこれまでの実績から、プアタイ党は次期総選挙で勝利し、他のどの政党よりも早く新政府を樹立する特権を得る可能性が高い。

新星、タイ前進党

タイ前進党（Move Forward Party、旧称 Future Forward Party）は、新しい政策や制度改革を通じてタイの政治を変えたいと願う若い新人政治家と経験豊富な専門家で構成される、今回選挙で有力な政党である。タイ前進党は、野心的な姿勢とソーシャルメディアを通じた革命的な

政治キャンペーンにより、2019年の最初の総選挙で合計 81 議席を獲得し、成功を収めている。同党は経済面では、台湾にヒントを得たレシート抽選政策を通じて、100 日間でタイ経済を活性化させることを目標としている。また、政治面では、徴兵制の廃止と同時に 112 条の改正を掲げている。このような政策は、タイの変化を望む有権者の注目を集めている。

3月に17.40%（小選挙区議席）、17.15%（党員名簿議席）だった同党の支持率は、5月初めには33.96%（小選挙区議席）、35.36%（党員名簿議席）と急激に上昇し、無敵のプアタイ党の次に人気のある政党となった。前述の通り、党首ピター氏自身の人気も絶好調である。NIDA世論調査のディレクターであるスヴィチャ・プアリー（Suvicha Pouaree）助教授は、ピター氏とタイ前進党の躍進の理由のひとつに、テレビやその他のオンラインプラットフォームで実施される政策討論会における、優れたパフォーマンスがあると指摘している。ピター氏は、党の主要政策が何であるか、いつ実施されるか、予算はどこから出ているのかを説明することができた。タイ国民は、重要な政策を発表し壇上で質問に答えるピター氏のスキルに感銘を受けているようだ。これは、タイの政治アナリスト、シリパン・ノグスアン・サワスディー（Siripan Nogsuan Sawasdee）教授が、ピター氏の討論会出演が彼自身と党の人気上昇に大きく貢献していると主張したことと一致する。

また、特に親軍事派と反軍事派の政治的偏向が激しい中、タイ前進党の明確な政治的立場がリベラルな有権者から多くの信頼を得ているというのが両氏の見解である。選挙期間中、プアタイ党は、軍任命の上院票を合わせて 376 議席に達することを期待して、プラウィット将軍率いる PPRP と連立政権を組むという噂もある。タイ憲法では、首相候補は下院 500 票と上院 250 票の両方から過半数の票を得る必要があるため、376 票がマジックナンバーとなる。こうした状況の中、他の政党と連立を組む可能性について尋ねられたピター氏は、「もしプアタイ党が、プラユット首相のタイ統一党やプラウィット将軍の PPRP のどちらかと連立した場合、自分の党は野党にとどまる」と答えた。この声明が発表されると、直近の世論調査ではピター氏とタイ前進党の人気は急上昇している。

また、スヴィチャ助教授は、18歳から25歳のタイの若い有権者の75%以上が、タイ前進党に投票するだろうと述べた。さらに今度の選挙では、約400万人の初回投票者がおり、有権者総数の7.64%を占める。タイ前進党は、国に変革をもたらすという野心を持ち、若者に人気があるが、今度の選挙では初回投票者の数が増えるため、同党が成功を収める可能性は高くなっている。

結論

プアタイ党やタイ前進党の解散のような予期せぬ出来事がなければ、野党による新政権が誕生する可能性が高い。非民主的な憲法の存在や、プアタイ党と PPRP が連立を組む噂があるものの、最近の世論調査や過去の記録から、主要野党が連立政権を組む可能性がある。また、上院が野党の首相候補への投票を拒否し、タイ政界が行き詰まるというシナリオもある。しかし、プアタイ党、タイ前進党、その他の民主的政党を合わせて 376 議席に迫る議席を獲得すれば、任期が1年しかない上院議員にプレッシャーをかけることになる。世論調査通りであれば、プアタイ党とタイ前進党の協力により、親軍事政党が下院で過半数を占めることを防ぎ、タイを

軍事政権の遺産から救うことができるだろう。

【翻訳】

中島 崇裕（一橋大学法学部 学士課程）

中野 智仁（一橋大学国際・公共政策大学院 修士課程）

ラクウォン・パキット プロフィール

一橋大学大学院法学研究科博士後期課程に在籍し、一橋大学グローバル・ガバナンス研究センター（Institute for Global Governance Research: GGR）の研究・アシスタントを務める。研究テーマは東アジア政治、タイ政治、国際関係論。文部科学省国費留学生。一橋大学で国際・行政の修士号を、タマサート大学（タイ）で政治・国際関係の学士号を取得。